



■ 基調講演：「これからの銀座の街づくり」 竹沢えり子(銀座街づくり会議事務局長)

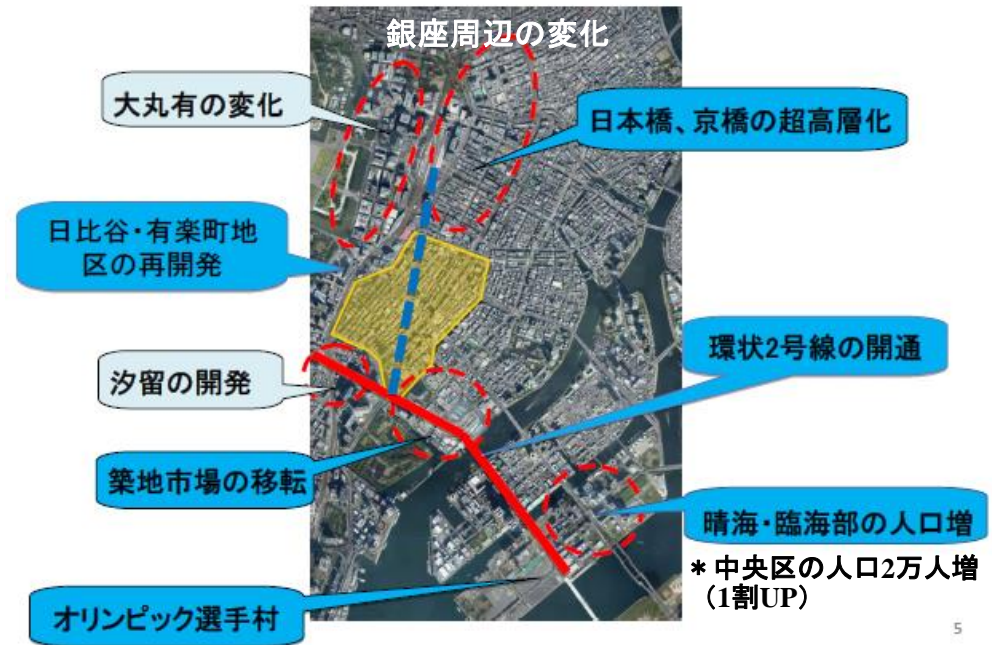
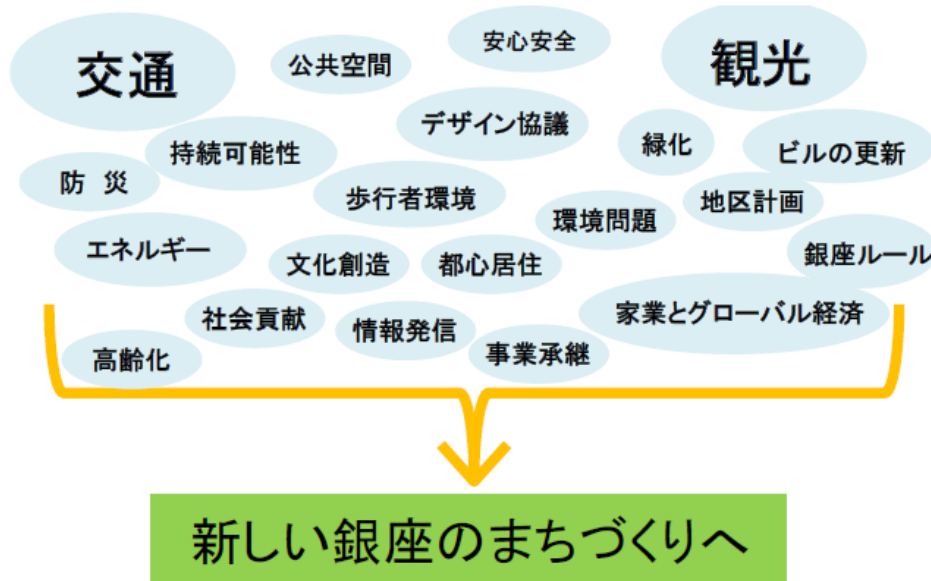
◆ 銀座とは？

- ・間口が狭くて奥が深い、「上質」「洗練」「信頼」という印象を持つ、**多面的な魅力**あふれる街
ex. 日本有数の繁華街、老舗「のれん」、ギャラリー(画廊)、百貨店の集積地、ファッション、歩行者天国、etc.
- ・**革新こそが銀座の伝統**(3回の破壊と復興) = **銀座は変わり続ける街**

- ① 明治5年(1872年)の大火⇒ 明治煉瓦街
- ② 関東大震災(1923年)⇒ 震災復興
- ③ 戦災(1945年)⇒ 戦災復興

* 関東大震災の前でも既に
『ああ、もう僕の知っている銀座ではない』と嘆く人がいた

◆ さまざまな課題



- ・交通問題：中央区の人口増に伴い、買い物&通勤目的で自転車の**違法駐輪**が増加(最近では銀座通りまで)
* 加えて、インバウンド消費の増加で観光バスも増加
* 環状2号線(新虎の門通り)の開通、BRTの路線案⇒「**銀座の交通グランドデザイン案**」策定
ex. BRTを銀座も通るルートに、歩行者専用時間帯規制、シェアサイクル、路上駐輪徹底禁止、etc.



■ 基調講演：「これからの銀座の街づくり」～続き

◆ 課題への対応

- ・これまでも銀座通連合会などの通り会や町会を中心に、行政(中央区)と協議しながら暗黙のルールであった「銀座フィルター」をルールとして明文化してきた
 - * 1984年：「銀座憲章」制定
 - * 1998年：地区計画「銀座ルール」策定
 - ⇒ 2種類の地区計画、前提条件付きで容積率を緩和(いずれも高さ56m以下)
 - * 1999年：「銀座街づくりビジョン」発表
- ・2001年：「全銀座会」発足、その下に銀座街づくり会議などを組織化
- ・2014年：東京5輪開催決定を受け、全銀座会「G2020」発足
 - ⇒ **唯一無二の街、銀座**というブランドロイヤリティの確立・強化を目指す
- ・銀座観光案内所の設置：**G info**
- ・高齢者、障害者対応：ハードのリノベーションは難しいので「ユニバーサルマナー」の周知
- ・連続シンポジウムをこれから開催予定⇒ **新しい銀座ビジョン**の策定へ
 - * テーマ案：① 変貌する東京のなかの銀座(2016年8月)
 - ② 変わりつつある都市空間の表層 …など

◆ 銀座が銀座であり続けるために～唯一無二の街、銀座～

- ・銀座らしさとは？⇒ **個性的な、中小専門店のつらなり**。
 - ⇒ **顔の見える関係に基づいた、過去・現在・未来へとつながる信頼**。
- ・10年後、20年後、そして100年後にも「やっぱり銀座はいいわね、銀座らしいわね」と言っていただけのためには？

* 参考図書：「銀座にはなぜ超高層ビルがないのか」竹沢えり子
(平凡社新書)





■ 銀座ファン代表が銀座人に「モノ申す」

◆ 銀座代表: ALBION(大西千賀子、小柳かすみ)

- ・大西: アルビオンは本社が銀座1丁目にあるものの、従業員は銀座生まれの銀座育ちというわけではない。私の場合、子供が銀座にある泰明小学校に通っているの、仕事以外でも銀座中心に過ごしている。最近気になるのは、外国人のマナーと銀座の街を宣伝カーが走り回っていること。
- ・小柳: 最近インバウンドが中心になってきて、本当に日本人にとって銀座があこがれの街になっているか疑問。銀座の魅力の一つは意外にランチが安いこと。
- ・片平: そうそう、銀座や京都は高級店でも高くない⇒舌の肥えた客が厳しく通っているからだろう、逆に西麻布や代官山は中身の割に高い。

◆ 丸の内人代表: 三菱地所

- ・先ほど城壁のような地図を拝見しましたが、銀座と丸の内の二個一で考えませんか。
- ・銀座はうらやましい、丸の内はハード的に裏がなく、インフォーマルコミュニティが作りにくい。

◆ 築地代表: 山崎さん(場外市場の“ぷらっと築地”=案内所のマネージャ)

- ・晴海通りを使って銀座と連携を図りたい。
- ・築地の新しい取り組みとして、隅田川の水上交通活用: これでは浅草ともつながる。



◆ 若者代表: 片平ゼミ生(学生101人に聞いた調査結果)

- ・銀座にあこがれはあるものの、今行きたい場所ではない(分不相応)
- ・よく行く街は渋谷・新宿など(聞いた場所が駒場周辺らしい)
- ・銀座に行く場合は目的を持って、しかも母親同伴が多い(聞き取り対象は女性が大半?)



◆ 主婦代表: 太田恵理子(キリン食生活文化研究所所長)

- ・キリンビールは2013年に本社が中野に移転する前は八丁堀にあったので、銀座にはよく歩いて通った。
- ・ランチは中野に比べても安いと実感、しかも中野では10分ぐらいで出ないとダメだが、銀座はゆったりできる。
- ・プレゼンの中でBRTには違和感、人の歩くスピードにあわせた乗り物が良い(人力車ではあざといが・・・)
- ・モノ申したいことは“タクシー乗り場”、夜どこかよく分からない(←バブル時代の規制が残っているとの説明)



■ 銀座ファン代表が銀座人に「モノ申す」～続き

◆ 数寄者代表：花柳迪薫（はなやぎ みちかおる、花柳流日本舞踏家、元タカラジェンヌ）

- ・神戸出身で、17歳で初めて東京（宝塚劇場）に来て銀座を知る。
- ・2002年に東京に出てきて、その時は「毎日歌舞伎を見るぞ」という意気込みだった。
- ・プレゼンについて、客を呼ぶにしても“なぜ呼ぶか”が考えられてないのではないか。
- ・銀座は昔に比べ専門店が減ってしまった、世界中どこへ行っても同じ店が並ぶようになった。
- ・神戸は“モダンな大人の街”で銀座は“洗練された大人の街”だと思っていて、私は文化を通して街を見ている。商業や行政を通して見るだけではつまらない。

■ パネルディスカッション「これからの銀座を語る」

遠藤 彬 （全銀座会G2020委員長、ハツコエンドウ社長）
伊藤 明 （全銀座会催事委員長、銀座伊東屋社長）
竹沢 えり子（銀座街づくり会議事務局長）
片平 秀貴



遠藤 彬



伊藤 明

片平：銀座の本質は“中小の専門店のつらなり”、“代を超えた顔の見える関係（信頼）”だと伺った。

遠藤：先ほどの丸の内の三菱地所さんのお話はうらやましく聞いた。銀座には大手デベロッパーがいない⇒故にカネがない。それとビル中心ではなく、歩いて回遊して楽しめる街⇒超高層ビルは要らない。

伊藤：大事なのは中小の専門店が連なっているところ(ex. 山野楽器、ミキモト、ハツコエンドウ、etc.)

しかし同じことを続けるのではない、銀座は革新の街。私もそうだが、親の後を継ぐ我々は親に反発してガラッと変えようとするものだ。銀座の専門店の役目はテレビに出てくるアイドルと同じ。大企業にある力や知恵はなくても、お客様を楽しませる役割に徹する必要があると感じたことがある。

片平：竹沢さんの本の中に“銀座フィルター”というのが出てくるが、明文化しなくても自然と淘汰されるものですね。でも最近はだんだんそうは行かなくなってきた、ということですね。

竹沢：銀座でも最近、世界のどこにでもあるような店が増えてきた。そんな中で中小の店が生き残ろうとすると、自力で頑張るしかないのが現実。



■ パネルディスカッション「これからの銀座を語る」～続き

遠藤：土地の所有が個人からファンドに変わったりして来た⇒だから街づくりルールが必要に。

銀座フィルターが効く時間を待てられないほど、開発のスピードが速まった。

伊藤：私の好きだった個人経営の焼肉屋も、近所に牛角が進出したら、名前の通った牛角に客を取られた。

実は伊東屋にも大手デベロッパーから、「文房具屋は儲からないから、貸しビルにしないか」と持ちかけられた。

(地価が上がると固定資産税が上がリ利幅の小さい商売を続けるのは困難、また相続税も上がるので承継も厳しい)

片平：30年後、遠藤さんの的には銀座はどうなってほしいと思いますか？

遠藤：先ほどの地図もそうだが、現在は行政の区分で分割されているが、周りと一緒にやってやりたい。

また指摘のあったタクシー乗り場、BRTとかは再考したい。

伊藤：若い人たちから「銀座は高い街」と思われているのが残念。銀座は決して高くない。高いのではなくて、長く使える良いもの⇒トータルで安い。価格を下げる事が価値と考える店はフィルターに合わない⇒淘汰される。

竹沢：我々としてはBRTありきの交通ビジョンを考えているのではない。

優先順位＝①歩行者 ②公共交通 ③自転車 ④クルマ、と考えている。一方最も困っているのは通過交通
⇒BRTも歩くほどのスピードで楽しんで街を回遊するための乗り物としたい。

専門家からも、交通の事そのものよりも、“そこで乗り物を降りたくなる魅力・店づくり”が重要と言われている。

片平：銀座エルメスの社長(以前MBFで講演して頂いた齋藤峰明社長)が進出する際に、小唄を習いに行ったと聞いた。

何故なら銀座の旦那衆が生徒として集まるから、そこでグループのメンバーにならないと進出できないと思ったから、
だそうです。これほどではなくても、こういう思慮深い経営者が銀座に集まってきてほしいですね。

本日は長時間ありがとうございました。

<感想>

「銀座」という街は、日本一の地価に裏打ちされた、特別の響きとブランド価値を、昔から当たり前のように持ち続けて来たものだと思っておりましたが、実際は「革新こそが銀座の伝統」だったというのは驚きです。また大手のデベロッパーが開発する丸の内や日本橋と違って、巨大な資本力を持たない中小の専門店の集まりに過ぎない街が、よく弱肉強食の資本主義市場で生き残れているのは、全銀座会の粘り強い活躍があってこそ、というのもよく理解できました。